

私は今まで税についての知識があまりなかった。物を買った時に付いてくる消費税で損をした気分になり税金について良いイメージを持っていなかった。しかしその税金で私は何度も助けられていることを知った。

私は生まれ付き病気を患っていて同い年の子達と比べて体が弱かった。日光に当たるのが駄目によく学校を休んだり、学校に行っても毎日のように保健室に通っていた。中学校にあがってからは大分良くなり、激しい運動も出来るようになっていった。けれども完全に治ってはいないので学校を休む回数こそ減ったが、体調を崩すことが多々ある。そうすると決まって母に連れられて病院に行くのだが、私はこの時間が大嫌いだった。母の運転する車に乗って病院に行くまでの時間、医師の話を聞いている時間、診察が終わり薬を処方してもらうまでの待ち時間、どれをとっても良い思いをしなかった。なぜなら小さい頃は自分のことに精一杯で気にも留めていなかったが、小学校高学年頃から両親への申し訳なきで押し潰れそうだったからだ。精神面はもちろん、お金の面でも迷惑をかけてしまっているに違いないと思い込んでいた。ある日、その重圧に耐え切れなくなり、胸の内を母に晒け出しながら謝っていると、母は笑顔で子ども医療費受給制度を教えてくれた。それは中学三年生まで医療費の自己負担が無料になる制度なのだそう。私はこれを聞いてとてもびっくりした。そのような制度があることに驚いたし、何より自分が気付いていなかっただけで税というものこんなにも身近に存在していたものなのだと痛快した。

このことがあってから私は日常生活において、視野を広げることを意識するようになっている。そのおかげで税について以前よりもくわしくなることが出来た。税はいわば未来への命をつなぐバトンなのだ。このバトンがどんどん増えていけば今より、よりよい社会へと変わっていくだろう。しかし現実的に考えて現状だと難しいと考えられる。私一人だけが行動を起こしてどうにかなるような簡単な問題ではない。けれども一人一人が意識を変え、行動を起こせばそれは大きな力になる。今日本は税金を巡って「年金問題」や「少子高齢化」などたくさん問題を抱えている。これは決して他人事ではなく、未来の自分達におおいに関係してくる。これからも日本に住むならば今こそ税について学び直す時なのではないだろうか。